

議会だより

行政報告・補正予算

意見書…………… 2～4

町政のそこが聞きたい…………… 5

一般質問…………… 6～10

研修会報告…………… 11

決算審査特別委員会…………… 12～13

常任委員会などの動き…………… 14～17



記念誌用に撮影<平成30年1月15日撮影>

古多糠福寿会

創立50周年を迎え平成30年11月9日(金) 古多糠寿の家にて
記念式典を催しました

代 表:草野藤吾郎
年会費:3,500円
例 会:不定期

会員数:22名
設 立:昭和43年

発行／北海道標津町議会

編集／広報特別委員会

秋サケ漁 わずかながら上向きに!

金澤瑛町長の行政報告



基幹産業の状況

酪農業

平年に比べ4月から5月の天候は日照・気温・降水量とも順調に経過したが、6月中旬以降の天候が不順であったことから、牧草の生育は総じて平年並みとなった。

収穫についても、6月中旬以降の継続的な降雨により大幅に遅れ、適期収穫がかなわず、さらに、2番牧草についても1番牧草の収穫作業のずれ込みがそのまま生育の遅れにつながり収穫作業の遅れが生じたが、作業の外部委託化及び効率化の進捗により収穫量、栄養価とも平年並みとなった。

一方、4月から11月末までの8ヶ月間にお

ける生乳生産量は平成30年胆振東部地震に伴う停電の影響で生乳の廃棄(753トン)、金額にして7530万円、並びにその後の乳房炎等疾病の発生により一時その生産が落ち込んだものの、その後生産が回復し、前年比99・1%、累計で6万8608トン(前年比▲637トン)となっている。



牧草の収穫風景

また、農業生産額については、乳価の上昇

及び、乳用牛・肉用牛の市場価格の高留まりにより、11月末現在では、前年とほぼ同額の75億6700万円となり、順調に推移している。

しかしながら、農業生産資材価格は、為替相場の円安に傾く流れや受給バランスの影響から石油を代表とする生産資材・輸入家畜飼料が高留まりとなり、相変わらず厳しい経営環境となっている。

現在、農業の置かれている環境は12月末日で発効するTPP11協定、平成31年2月に発効を目指す日欧EPA協定や、妥結に向け大詰めとなったRCEP等貿易自由化の渦中にある。また今後、米中による通商政策の対立や日米物品協定(TAG)の交渉開始など、

益々深刻化することが予想され、農業経営の継続断念や投資意欲の減退等悪影響を与えることを懸念している。

急速な少子高齢化の進展により人口減少が顕著となり農業の担い手も減少するものと考えられる中で、新たな本町農業の進展に向け新規就農者への支援、農業コントラ、酪農ヘルパー等アウトソーシング(外部委託)組織の形成・維持が不可避となっているところである。

水産業

秋サケ漁については、北海道さけ・ます内水面水産試験場が発表した来遊予測では、全道で前年比180・6%、標津海域を含む根室北部地区で前年比267・8%となっていた

が、11月末に終漁した漁獲結果は、前年比176%の3544トン（小定置網漁を含む）、漁獲尾数は前年比189%の127万3千尾であった。

4年魚が8割以上を占めたため、平均の魚体が2・7kg台と小型化したことが特徴で、最近20年間で2番目に小さい魚体となった。

全道の水揚量は、11月28日現在で、前年比117%の5万9446トン、根室管内は前年比159%の1万679トンと、前年を上回ってはいるが、予想を大きく下回り、厳しい状況が続いている。

漁業協同組合別の秋サケ水揚量では、1位が網走で56%増の7755トン、2位以降は斜里第一、常呂、ウト口と続き、標津は5位

（昨年7位）で終漁となつてはいるが、根室管内で見ると、標津が18年ぶりに羅臼を上回り、平成12年以來の管内1位となったところである。



鮭の水揚風景

本町の秋サケ水揚額は、前年比117%の23億7700万円（小定置網漁を含む）と、昨年を3億3千万円余り上回り、最近10年間では、4番目の記録となったが、依然として厳しい状況と認識している。

不漁の原因が特定さ

れず、确实・有効な対策が見いだせない状況ではあるが、資源造成のための親魚の確保、健康で元気な稚魚づくりが重要である。

町としては、今後も継続して、資源造成に必要な施設整備、自然産卵調査、サケ稚魚の餌料調査、河川環境保全などを、地域が一丸となって取組んでいく必要があると考えている。

一方、ホタテ漁については、年間5070トンの生産計画となつており、夏操業を終えた段階で水揚量が2561トン、年間計画の51%の達成状況であった。11月12日から秋操業が始まっており、11月29日現在で3091トン、61%の達成率である。今後の漁模様に期待するところである。

次に、水産加工業については、平成29年の秋サケ大不漁による極端な魚価高騰、加工原料不足は若干改善されたとは云え、依然として魚価は高値水準にあり、加工従業員の確保も難しいなど、水産加工業を取り巻く環境は険しさの只中に置かれている。

加えて、工場や取水施設などの時化による破損を防止すること、特に取水施設については、抜本的な対策が必要となっており、町も粘り強く北海道に要望を続けている状況である。

このように、大変厳しい状況にありながらも、それぞれの加工場にあつては、懸命な経営努力を重ねられていることから、町としても水産加工業者への支

援を継続して参りたいと考えている。

このような中で、漁業生産者においては、サケ・ホタテの町民還元を引き続き行つていただいていることに、町民を代表して心から感謝を申し上げます。

久留米大学訪問

去る10月29日から11月1日の日程で、私と田中議長、大野院長、そして事務長の4人で、「教育関連診療科」として位置づけをいただいている、久留米大学医学部内科学講座及び外科学講座を訪問し本町への医師派遣の願いをしてきた。

結果、久留米大学の内科学講座の星野友昭主任教授、並びに外科学講座の赤木由人主任教授が出張のため不在であったので、森直樹

医局長と懇談させていただき、本町への医師派遣について、引き続きご理解をいただき、今後も派遣いただけることになった。



赤木主任教授を囲んで

外科学講座の赤木由人主任教授が、11月29日に来町された。私は公務出張のため不在にしていたので、副町長や大野院長、標津病院の医師との懇談をさせていただいた。
赤木主任教授は、私どもが10月に久留米大学を訪問した際に不在

にしていたことへご配慮によって来町されたもので、久留米大学の手厚いご配慮によって、安定した医療体制を確保できることに、深く感謝を申し上げます。

道内の陸上自衛隊の削減検討に関する報道

12月1日付けの北海道新聞において、新たな防衛計画の大綱等（防衛大綱）で、「道内陸上自衛隊の削減を検討している。」旨の報道があった。

削減対象や規模など詳細は固まっていないが、南西諸島防衛やミサイル防衛システム強化に伴う部隊配置転換などのため、道内の戦車・大砲部隊を中心に数百から千数百人程度の削減を検討しているとの内容である。

当町には陸上自衛隊

標津分屯地があり、100名前後の隊員が北方防衛の任務に当たっている、災害発生時の支援はもとより、ご家族含めて地域活動にも積極的に参加をいただくなど、本町にとって標津分屯地は無くてもならない存在である。

報道のような、部隊の縮小あるいは廃止の検討が行われることに大きな危機感を持っているし、また、これが実施された場合、当町への影響は計り知れないものがある。

今後においても、標津分屯地や北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会（駐連協）と連携を図り、中央への要請活動や情報の収集など、分屯地の体制維持に最大限の努力をしていく。

一般会計の補正予算（主なもの）

（単位：千円）

項目	金額	内容
ふるさと応援基金積立金	53,530	指定寄附（ふるさと応援寄附）の積立
障がい者介護・訓練等給付費	38,712	決算見込みによる障がい者介護・訓練給付の追加
農業基盤整備促進事業（川北南2線地区農道工事）	7,158	平成29年度からの繰越工事分を現年度に移動する調整等、事業費確定に伴う経費追加
標津漁港排水処理施設整備事業補助金	5,251	標津漁業協同組合の排水処理施設（漁港への排水を処理する施設）の補修経費補助

条例の改正

- 町長及び副町長の給与に関する条例等の一部を改正する条例制定
- 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定
- 町長、副町長及び教育長に対する期末手当に関する条例等の一部を改正する条例制定

意見書

○北方領土問題の解決と日露平和条約締結に関する意見書

提出者 **大垣 勇** 議員

国道335号海岸浸食

早急な対応について

現状で国道への浸食は

見受けられない

問 国道335号線は

昭和50年4月に、道道727号線から昇格した、伊茶仁から羅臼町に至る総延長42・5キロの基幹道路である。

近年、この国道の海岸線は異常気象の影響を受け、浸食が著しく進んできた。

過去にもこの対応として、旧国後展望閣付近から忠類市街地入口付近まで山側へ約12mの道路移設を実施しているが、この区間も含



南 憲二 議員



整備直後の伊茶仁海岸

ては、どのような計画があるのか、標津町として現状をどう捉えているのか質す。

答 国道335号線は標津町と羅臼町の生命線である、釧路開発建設部は、大型布団籠の設置や海岸浸食の進み具合の防災点検を継続している、又、道路防災有識者検討会の報告は、現状では国道に対する海岸浸食は見受けられないとの見解だが、安全・安心を強く要望して行く。



浸食が進む忠類海岸

崎無異川(崎無異橋)の左岸上流(市街地側) 堤防施設の整備を要す!

平成31年度予算に

シミュレーションを計上

問 国道335号線の

崎無異川に架かる崎無異橋の左岸(崎無異市街地側)は、この橋建設時に造られたと推測される、コンクリート製の堤防が100m程あり、増水時には堤防として機能を発揮している、しかし、この堤防の上流には砂利が列状に推積されている。

この推積物は堤防として置かれていていると思われるが、近年の異常気象による大雨で崎無異川に洪水が発生した場合、これが流失する危険もある

伊茶仁川、薰別川、崎無異川は普通河川で町が事業主体となり整備する河川です、想定最大雨量のシミュレーションをして、その結果、工事が必要かどうかの判断をする。

この件については平成31年度予算にシミュレーションを計上する。



崎無異川砂利堆積

北方領土返還問題
2点に関して質す

- ① 北方領土返還交渉の現状認識並びに所見
- ② 「北方基金」の運用方式の変更理由



木下 孝 議員

【日ソ共同宣言】1956年、ソ連を訪れた鳩山一郎首相とブルガーニン首相が署名。戦争状態を終結し、国交を回復。平和条約締結後の歯舞・色丹2島引き渡しを明記。



前列左より英国・米国・ソ連の首脳

【ヤルタ協定】1945年2月21日、ルーズベルト、チャーチル、スターリンの米ソ英3国が締結した協定。米由は対日参戦を条件に、ソ連に樺太南部の返還と千島列島の引き渡しを約束。

首相「2島先行」へかじ

日ソ共同宣言手掛かり

2島返還なら「日本に主権」

官房長官 日口認識に隔たり

問 私は、北方領土返還問題の膠着化に対し、返還運動実践者、元島民、加えて公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟全国理事として、業を煮やして来た。国の専権事項である「外交政策」に一貫性がなく2転3転し、「固有の領土」を蔑ろにした極めて遺憾な「返還交渉」の実態である。元島民、返還運動関係者は、一喜一憂を強いられている現状である。

菅義偉官房長官は16日午前の記者会見で、1956年の日ソ共同宣言に基づき平和条約締結後に歯舞群島、色丹島が日本へ引き渡された場合、「当然、日本の主権も確認されることになる」と述べた。ただ、ロシアのプーチン大統領は15日、歯舞、色丹両島の引き渡しには主権問題も今後の交渉対象になるとの認識を示しており、日口両国の認識には隔りもある。

私は、日ソ共同宣言に基づき、日本の主権下の2島（歯舞諸島・色丹島）返還を前提とし、国後島・択捉島に關しては、「共同経済活動」を通して、交渉を継続し、返還への展望を開くべきと考えている。

- ① 領土返還交渉の現状認識並びに所見
- ② 北方基金が利子運用から基金元金の取り崩しに至った経緯

以上2点を質す。

答 ① 四町町長の統一見解は、「返還問題は、外交交渉に委ねる」としている。

安倍首相は「2島先行返還」に舵を切った様であるが、ロシア側は領土問題に關して、肝心な所でヤルタ（秘密）協定を引き合いに出して来る。

一標津人としては、

国後島が返還されて初めて「四島が動いた」と思える。

答 ② 副町長 北方基金成立当初（昭和58年）は、運用益が5億9千万円あったが本年度に至っては8千万円程に目減りし、十全な振興事業策が取れなくなった。一括交付金制度を視野に入れ、基金元金の取り崩しとなった。

サーモンハウス
早急なるテナント決定を！

答 物品販売スペースとレストランスペース。一括募集か分離募集かの結論を出し、早急に町内外から広く募る。



テナント決定が待たれる「サーモンハウス」



高橋 幹雄 議員

人口減少時代に挑戦する政策パッケージ 導入5年

評価

問 人口減少時代に挑戦する政策パッケージ導入から5年を経過しようとしている。この政策は、多くの関係住民から喜ばれている。今年1月1日時点の人口動態調査では人口増となった。子育て支援策や住宅取得への支援策の効果がここにきて表れてきたのではないかと、どう評価しているか。

人口の減少が鈍化してきた

答 5年前に人口減に大変危機感を持って政策パッケージをスタートした。評価との質問だが、人口の減少が鈍化していると感じている。何も対策を講じなければ、国立社会保障人口問題研究所の最近の発表によると今年の12月には標津町の人口は5千人割れと推定されており、27年後は3千人台になると言われている。「人口の減少が鈍化」している事は大学の研究機関でも評価されているし、久留米大学の医師派遣のバロメーターにもなっている。

北海道新聞 平成30年7月12日(木曜日) 16面 地域の話 根室

網走・根室管内13市町村の人口

市町村	人口(人)	前年比増減数(増減率=%)	前年比自然増減数(増減率=%)	前年比社会増減数(増減率=%)
網走市	172,391	▲2,127 (▲1.22)	▲1,235 (▲0.71)	▲892 (▲0.51)
網走町	19,946	▲25 (▲0.13)	▲46 (▲0.23)	21 (0.11)
厚岸町	9,648	▲189 (▲1.92)	▲80 (▲0.81)	▲109 (▲1.11)
浜中町	5,997	▲104 (▲1.70)	▲21 (▲0.34)	▲83 (▲1.36)
標茶町	7,728	▲93 (▲1.19)	▲64 (▲0.82)	▲29 (▲0.37)
弟子屈町	7,428	▲179 (▲2.35)	▲83 (▲1.09)	▲96 (▲1.26)
標岡村	2,538	13 (0.51)	▲9 (▲0.32)	21 (0.83)
白糠町	8,037	▲178 (▲2.17)	▲90 (▲1.10)	▲88 (▲1.07)
根室市	26,390	▲619 (▲2.29)	▲207 (▲0.77)	▲412 (▲1.52)
別海町	15,377	▲120 (▲0.77)	▲28 (▲0.18)	▲92 (▲0.59)
中標津町	23,661	▲226 (▲0.95)	▲52 (▲0.22)	▲174 (▲0.73)
標津町	5,375	7 (0.13)	▲19 (▲0.35)	26 (0.48)
羅臼町	5,231	▲127 (▲2.37)	▲35 (▲0.65)	▲92 (▲1.72)

※1月1日現在。人口は外国人を含む。▲はマイナス
総務省調査

釧根の人口1.26%減

標準は増加、定住策が奏功

継続

問 4年、5年経過して効果が出ていると思う。関係住民に歓迎されていると同時に経済効果も大きい。町の財政力は継続する体力があるのではないか。

財政を確立しこの政策を継続

答 長く政策を続けることは更に効果は向上

充実策

する。現金サービスの面もあり、町の財政の確立が大事。現在、財政基金は約50億円保有しているが、これができたのは、財政改革を引き続き実施した結果で、町民の我慢が貯金の要因である。今後地方交付税がどうなるか、又、過疎対策事業の扱いが注目されるが、5、6年は確実に大丈夫と思う。「人口が減っても個人が幸せなら良い。」との考えの人がいるが、公共事業などが、少ない町民の負担となり行政サービスの低下に繋がる。

問 住宅取得助成やリフォーム助成が実施されてきた。又、望ヶ丘ハイムの整備事業や公営住宅の建て替え等も行われた。特に住宅の

新年度に向け対策を考える

新築については経済波及効果は大きい。しかし、助成制度があっても自己資産の乏しい人達にとっては利用は困難。新卒者や若い世代のニーズに合った比較的安価な住宅や家賃補助的な性格を持った住宅政策が必要。

答 移住者が増える住宅問題が生ずる。現在細かく検討しているが、20、30坪の住宅を安価で建築し、安い家賃で貸し、一定期間継続した住居者には、譲渡するなどが考えられるが、土地代の問題、又、民間を圧迫する問題もある。新年度に向け新規のモデルケースとして対策を考えていく。



吉田 智 議員

読解力の向上は喫緊の課題！

「標準型学習スタイル」を通してどの様に対応？

読解力向上に必要な対策を継続的に講じて行く

問 私は過去5回、定例会の一般質問において、子ども達(児童・生徒)の語彙力・読解力の向上(読書・新聞

精読)を促し、電子メ
ディア(スマホ・ゲー
ム等)の長時間使用の
弊害を討ち立てた。

標準型教育委員会は
平成30年度教育行政
執行方針の中で、義
務教育に関して、「言
語活動を重視しながら
『標準型学習スタイル』
に基づき、教育効果の
向上に努める。」との
旨を述べている。

しかしながら、標準
町の中学生(3年生)
の全国学力・学習状況
調査の結果を鑑みると
特に「数学B」におい
て、問題文(設問)を
読み取り、数学的思
考(代数を用いて解
く)への変換ができな
く、全国平均を大きく
下回った。数学の問題
を論理的に解決するた
めの初期段階の、「問
題文を正確に読み取
る」↓ ↓ 「xやyの代

代数の問題

求めるものを文字xやyを用いて表し条件を満たす式を作り、それを解く。

妹は兄より3つ年下で、兄の年齢を $\frac{5}{6}$ であるという。2人の年齢を求めよ。

① 妹の年齢をx、兄の年齢をyとする
② 条件Aより $x=y-3$
③ 条件Bより $x=\frac{5}{6}y$ **条件式**
④ ②と③の式を連立方程式として解いて

妹 兄

〈答〉兄：18歳 妹：15歳

数に置き換え、条件式を組み立てる」事ができない。

ベネッセ教育総合研
究所の調査で、「本を
読むほど算数の力アッ
プ」(問題を正確に読
み取る)との結果が出
ている。(参考資料参照)

読解力を向上させる
には、読書・新聞精読
や辞書を引く等、日々
の積み重ねに尽きる。
「読解力の向上」は

喫緊の課題であり、子
ども達の主体的な学び
の姿勢が求められる。

『標準型教育スタイル』
を通して、この課
題に対し、どの様に
対応して行くのかを問
う。

答 **教育長** 自ら学
び、考え、判断、表現
し、自立の基礎を育て
る『標準型学習スタイル』
を統一テーマとし、
授業改善、授業力
向上、家庭学習の習慣
定着化を図る。

合わせて、議論・説
明・発表等を通じて、
言語活動を充実し、読
書時間を確保し、学校
での図書や新聞の活用
等により、子ども達の
読解力、語彙力向上に
努めて行く。「教育を
立て直すことはとても
難しく時間を要する
事」を肝に銘じ、読解
力向上に必要な対策を
継続的に講じて行く。

研修会報告

平成30年度 根室町村議会議長会主催
議員研修会

10月13日(土) 於：羅臼町

根室町村議会議長会主催議員研修会
羅臼町で開催当議会より9名参加

10月13日(土)、根室町村議会議長会主催の議員研修会が、羅臼町にて開催された。村山修一会長(羅臼町)の挨拶の後、10年以上議会議員の職に当たる議員に対し、自治功労者表彰式が行われ、中標津町議会の3名が表彰された。



表彰を受けた鈴木・佐野・水石議員

表彰式後、釧路公立大学専任講師の千田航氏による講演が行われた。

講演

講師

釧路公立大学専任講師

千田航氏



講演中の千田氏

演題

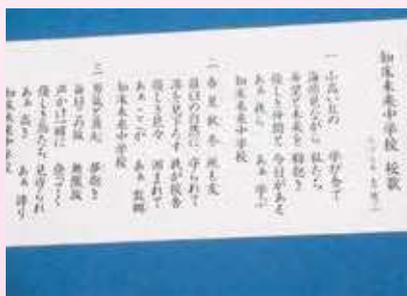
『町村議会議員の
なり手不足対策
について』

総務省の「なり手不足」に関連する2つの報告書を基に地方議会の今後に関して講演。

講演後、羅臼町立知床未来中学校(谷村靖志校長)の現地視察を行なった。同校は3月一杯で閉校となった羅臼町立羅臼中学校と春松中学校の統合校。同校の校歌は、羅臼大使の吉幾三氏が作詞及び作曲をした。



関係者が入場する玄関の様子



吉幾三氏の作詞・作曲の校歌のパネル

4月10日の開校式・始業式には、吉氏も出席し、全員で校歌を歌い開校を祝った。同校は、2階の中心に3階までの吹き抜け空間がある多目的ホールを設け、地域の防災拠点・避難所としても利用予定。



～教室・多目的ホールを視察する議員連～



決算審査特別委員会

平成30年10月1日～5日

決算審査報告

決算審査特別委員会は、第3回定例会において8人の委員（議長・議員選出監査委員を除く）をもって設置され、平成29年度一般会計・特別会計、合計9会計の認定審査を付託され（吉田智委員長・山崎陸郎副委員長）10月1日から5日までの審査日程を決定。今回の決算審査は『主要施策の成果等報告書』を主体とした審査とし、各施策を円滑かつ慎重な質疑応答・討論を経て10月5日総括質問を以って審査を終了、全会一致で認定決定した。

平成30年第4回定例会において、吉田委員長から審査報告がなされ、各会計とも委員長報告の通り認定された。

議案番号	事 件 名
認定第1号	平成29年度標津町一般会計決算
認定第2号	平成29年度標津町国民健康保険特別会計(事業勘定)決算
認定第3号	平成29年度標津町国民健康保険特別会計(病院事業)決算
認定第4号	平成29年度標津町介護保険特別会計(事業勘定)決算
認定第5号	平成29年度標津町介護保険特別会計(サービス事業勘定)決算
認定第6号	平成29年度標津町後期高齢者医療特別会計決算
認定第7号	平成29年度標津町簡易水道特別会計決算
認定第8号	平成29年度標津町下水道特別会計決算
認定第9号	平成29年度標津町金山地域休養施設等特別会計決算

委員会報告

委員会審査報告書には、次の意見を付して議長宛に提出した。

『毎年度、監査委員並びに決算審査特別委員会によって指摘されている、公的収入金の収納の確保は万全を期さなければ、自主財源の確保や、住民負担の公平性をいちじるしく損ねるなどの観点から徹底した対策、対応を講ずること。』

また、納税意欲の喚起、広報の充実や特別徴収の徹底、悪質な滞納者に対しては、徴収方法の強化を図り、納税の向上対策に尚一層の努力をされたい。』

一般会計

平成29年度 まちの決算書

歳入 68億5,060万円

差引

歳出 65億7,215万円

2億7,845万円

歳出

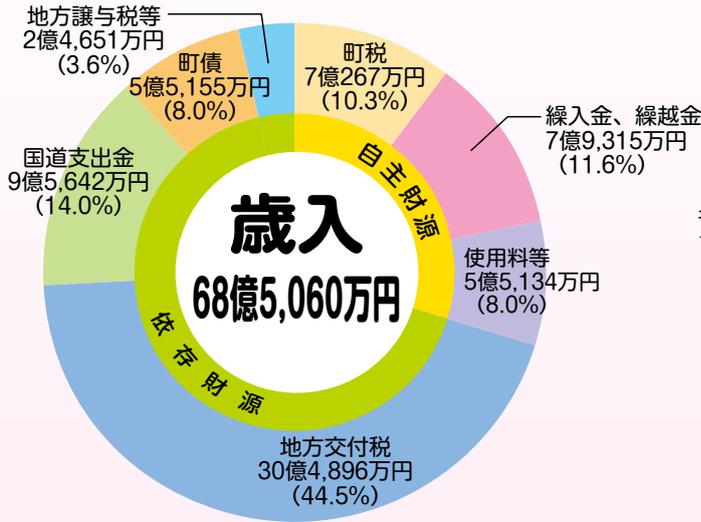
対前年比

※16.5%減

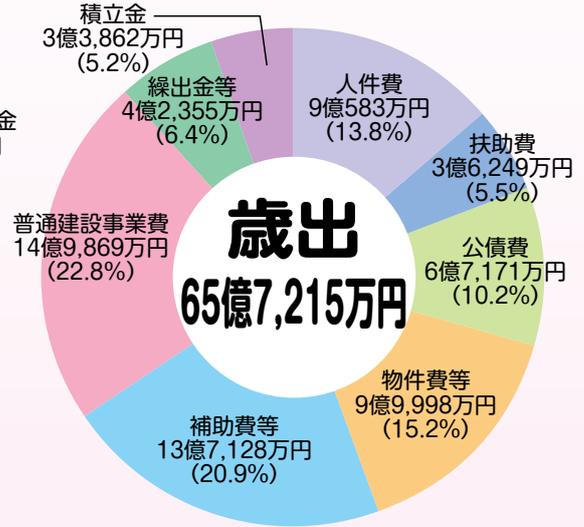
～町民力・地域力・行政力の結集によるまちづくりの推進～

※歳出減の主な要因…前年は、こども園建設・農業施設建設支援があった。

「財源別」内訳



「目的別」内訳



※自主財源 20億4,716万円 (29.9%)
 ※依存財源 48億0,344万円 (70.1%)

町債 = 借金

公債費 = 返済金

積立金 = 貯金

町民1人当たりが負担する町税
13万3,739円
 【参考：札幌市は14万7,133円】

町民1人当たりが受けるサービス
125万885円
 【参考：札幌市は50万8,737円】

各会計 歳入・歳出決算総括表

会計区分		歳入	歳出	差引
一般会計		68億5,060万円	65億7,215万円	2億7,845万円
特別会計	国民健康保険特別会計（事業勘定）	8億5,131万円	8億2,468万円	2,663万円
	介護保険特別会計（事業勘定）	4億3,691万円	4億2,290万円	1,401万円
	介護保険特別会計（サービス事業勘定）	2,777万円	2,777万円	0
	後期高齢者医療特別会計	1億1,416万円	1億1,401万円	15万円
	簡易水道特別会計	2億969万円	1億9,241万円	1,728万円
	下水道特別会計	2億7,928万円	2億7,904万円	24万円
	金山地域休養施設等特別会計	1,959万円	1,959万円	0
	特別会計合計	19億3,871万円	18億8,040万円	5,831万円
企業会計	国民健康保険特別会計（病院事業）	8億7,263万円	8億6,111万円	1,152万円
	資本的収支	1億312万円	1億312万円	0
	企業会計合計	9億7,575万円	9億6,423万円	1,152万円
総計		97億6,506万円	94億1,678万円	3億4,828万円

※各会計の端数処理により、合算と合計額が合わない場合があります。

常任委員会の動き

町内外行政視察研修

文教

福祉

建設

滝上町

音威子府村

★11月6日(火)～8日(木)の日程で、網走管内滝上町、上川管内音威子府村、同管内旭川市において行政視察研修を実施した。

滝上町では、買い物弱者・買い物困窮者を救った「公設民営型スーパー」を、音威子府村では、人口767人の全道一小さな村の、自治体の支援と村民の協力で支えられた「村立北海道おといねっぴ美術工芸高等学校」を、旭川市では、全国でも希有な民設民営の「三浦綾子記念文学館」と大陸や日本等と活発な交易を繰り広げた上川アイヌの歴史・文化資料を展示する「旭川市博物館」を視察研修し、研さんを積んだ。



公設民営スーパー（ナカガワ）
高齢者などが買い物しやすい食品スーパーとしてだけでなく、地域の交流の場としてコミュニティ維持に欠かせない存在です。

【滝上町町勢要覧より】

長年に渡り、農協組合員・地域住民に親しまれて来たAコープ滝上店が、平成29年1月末日を持って閉鎖され、地域住民の食生活を支える上で欠かす事のできない生鮮食品を常時扱う中核店舗が無くなるという深刻な問題が発生した。
買い物弱者・買い物



委員の質問に熱く答えるスーパーナカガワ中川修司社長

困窮者を作らない為に、滝上町は、Aコープの店舗建物・土地を取得し、設計・施工一括工事により急ピッチで改修工事を進めて、9月7日に公設民営型のスーパー「スーパーナカガワ」をオープン。店内には飲食店（食堂兼居酒屋）や住民が気軽に立ち寄り休憩できるコミュニティスペースも併設されている。

町（長）の住民目線に立脚した迅速な対応と、その期待に応え、安価で新鮮な生鮮食品を提供し、住民ニーズに適応したサービスを提供するテナント。地域衰退の危機を救ったプロジェクトである。



北海道おといねっぴ美術工芸高校「チセネシリ寮」前にて（右から4人目が左近勝（さこんまさる）村長）

生徒数の急激な減少により存続が風前の灯となった「北海道音威子府高等学校」。音威子府は、「高校の魅力化、特化が必要!!」の観点に立ち、道内で唯一の工芸科の専科高校として、村立の「北海道おといねっぴ美術工芸高等学校」と移管・改名した。村の人口は767人（平成30年5月末現在）。この内、116人が寮生活の為

に住民票を移した高校生。村にとって高校生は極めて大きな存在である。(人口の15%相当)

「美術工芸高校と伴に生きる!」と左近村長が明言した通り、村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、「人の流れの軸」として、高校が位置付けられている。



『音威子府村まちひとしごと創生総合戦略』(概要版)より

「少子化時代に過疎の地、音威子府で廃校を逃れ教育活動を展開出来ているのは、歴史

の中で培ってきた

- ①美術・工芸を通じた特色のある教育課程
- ②寮生活を通じた豊かな人間性の育成

の二点であり、村立高校を支えている地方自治体の支援と村民の方々の協力があるからである。」と松田校長は語った。

高校に対する村民の理解と熱意と期待。生徒の感謝の念と期待に応えようとする情熱、そして『ふるさと音威子府』の思い。

両者の相互関係が、活気溢れる音威子府を形成している。



椅子製作に励む一年生

旭川市

三浦綾子記念文学館



三浦綾子記念文学館〔右側が別館〕

三浦綾子記念文学館は、1998年6月13日、全国の三浦文学ファンの熱い思いと民設民営の形態で開館した。今年、20周年を迎え、旧三浦宅の「口述筆記の書斎」を別館として復元し、本年9月にオープンした。1922年に旭川市に生まれ、小学校教師、

13年に渡る闘病生活、

恋人との死別。三浦光世と結婚し、翌々年に雑貨店を開店。1964年、小説「氷点」の入賞でデビュー。35年の作家生活の中で、84作にも上る単著を生む。「塩狩峠」の執筆の頃から、夫・光世との口述筆記で書く様になった。・・・)

と、旭川の地に生き続けた三浦綾子の波瀾万丈の7年の人生を、当館の難波事務局長が、語り部として、熱く解説された。

『春を待つ』北国の厳しくも美しい自然を謳い上げた三浦綾子と三浦作品を、ファンと地域社会の共有財産として、語り・広め・伝えて行く熱意を感じた。



若き日の三浦綾子

旭川市博物館



～上川アイヌの歴史と文化を伝える～旭川市博物館

展示室では、大陸や日本等と活発な交易を行い、複雑な社会を産み出して来た上川アイヌの歴史と多くの民族資料、更に文化の伝承と創造に取り組む今日の上川アイヌの姿を紹介している。

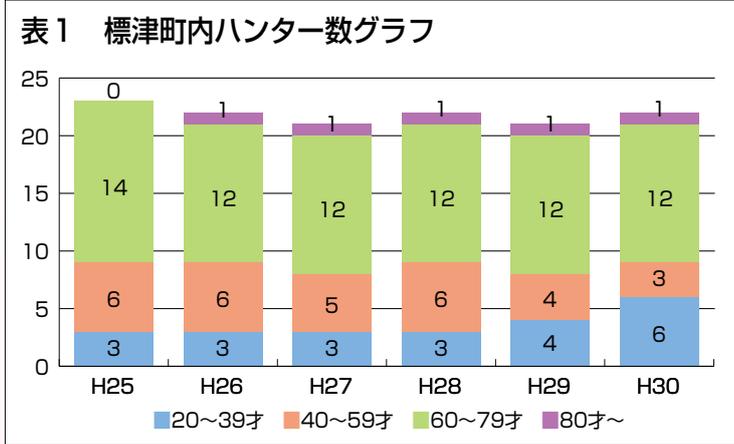


飯岡学芸員の懇切丁寧な説明に聞き入る委員

標津町ハンター育成・対策事業

農林課の説明によると、近年、全国的にハンターの減少が問題となっており、標津町においても増加する野生鳥獣管理対策において、ハンターは欠かせない存在であり、ハンターの育成は重要な課題となっている。そのため標津町では免許更新経費（車輛維持費、装弾代、猟銃維持経費）又、猟銃取得経費の一部を補助している。平成26年度から、『標津町ハンター育成計画』を作成し、①相談窓口の設置 ②ハンター入

門講座等のイベントにおける周知活動 ③免許取得に関する費用の一部助成 ④安全射撃講習会の実施などの施策を行っている。



- 若者がハンターになる課題
- ・捕獲技術が向上せず獲物が獲れない
 - ・狩猟免許及び猟銃の所持までに費せる経費
 - ・周囲に狩猟を行う仲間がいない
 - ・趣味の多様化
 - ・仕事や家庭のことが忙しく時間がない

- ハンター減少の主な要因
- ・猟銃の規制強化に伴う手続きの複雑化
 - ・更新手続き等に係る手数料や装弾等の高騰化
 - ・高齢化／実包の管理など



標津町商工会前での出発式

商工観光課より「カウモン号年度別実績」の説明後、①カウモン号の町助成金の根拠②加盟店舗と品数③運行経路④事業の効果として、今後の展開として、「従来のカウモン号は、老朽化が激しいため、新規購入し、衛生管理等の手続き、納車に向けて最終段階



商工会長よりキーを渡す

を迎えている。新しいカウモン号は、4WDとなるため悪路でも走行が可能になるし、冷凍設備も充実し品数も増えるなど更なる売上増につながる。」との説明を受けた。新カウモン号の出発式は12月7日に実施された。

移動販売サービス事業の運営

根室地方森林・林業・林産業活性化 推進議員連盟協議会(1市4町で構成)

10月10日 ～根室市内をフィールドに研修会～



北海道立北方四島交流センター「二ホロ」の外観

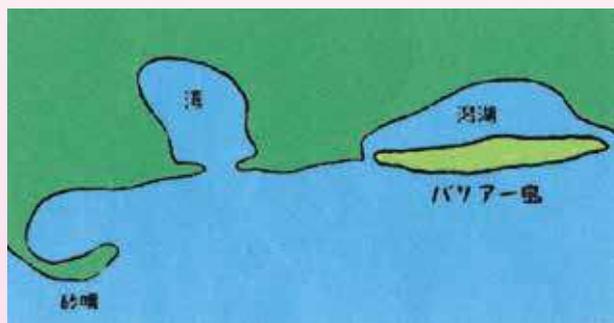
平成30年10月10日(水)根室市の北海道立北方四島交流センター「二ホロ」において、根室地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟協議会の研修会が行われた。標津町議会から石橋議員、吉田議員の2名が出席した。主催者の熊倉重樹会長(中標津町)が挨拶の中で、道立林業大学校誘致が不調に終わった件を述べた。

その後の、「根室市歴史と自然の資料館学芸員」の外山雅大氏の「多様な生物を育むところ〜春国岱の今・昔」を演題とする講演を受けた。春国岱(しゅんくにたい)は、【スングニタイ(エゾマツの林の意)】というアイヌ語から来ている。春国岱はオホーツクの沿岸流が運ぶ漂砂が堆積してできた砂州で、『バリアー島』と呼ばれるもので約3000〜1500年前の期間に形



春国岱原生野鳥公園の位置図

春国岱は隣接する風蓮湖と共にラムサール条約登録地で多くの観光客が訪れていた。春国岱内の木道は自然と野鳥を堪能できる散策路だったが、平成26年12月と平成27年10月の爆弾低気圧で大半が破損し、利用中止となっていた。



春国岱の海岸線の地形・説明図

成されたと考えられている。陸を海から守る様な姿から『バリアー島』と言った名称がついている。

今回の研修会において、3年振りに復旧した「ふるさとの道」を学芸員等の案内で視察研修を行った。



説明を聞く議員連



根回り状態で倒れているアカエゾマツ

ガバメントクラウドファンディングで全国から寄せられた善意の浄財により、復旧工事が進められ、3月4日に、春国岱の「ふるさとの道」の開通式が行われた。

寄稿



わが町のSL再始動!

標津転車台保存会
 事務局長 和田 徳子

国内の路線からSLが姿を消して43年。時を経てもなお多くの観光客を魅了するのは、火と石炭と水をエネルギーに人の手が加わって動き出す、まるで人間味のある機械だからではないかと思えます。世界に誇る現代日本の鉄道技術は高く車両は増々高速走行化される一方で、SLのような非日常的な時間の流れの中で、お弁当でも食べながらゆったり窓の外を眺めるのはなかなかいいものです。

さて、わが町に保存されているSLについては、C11224(シージュウイチ、二一ーヨン)と申します。当時の最新技術を投じて作られた、コンパクトで軽く小回りが利くC11形蒸気機関車の224台目に製造されたことを意味しています。開拓地の中、煙を壮大に吐きながら走る雄姿は、苦難を



12月23日のクリスマスイベント

活用し町民の皆様にも愛される存在でい続けられるよう、思考を凝らして活動をしてまいります。旧国鉄根室標津駅跡地へSLを移設し、鉄道遺産を集結させた「SLひろば」のお披露目から活動は始まりました。標津町や標津町商工会をはじめ日本全国からの支援者のおかげで、今年度は2月の節分・恵方巻イベント、5月のこどもの日イベント、8月の町民祭り水・キラリ転車台イベント、10月の「鉄道の日」イベント、12月のクリスマスイベントなどをを行い、累計来場

者数は約800人を越えました。2年前は雑草で覆われた転車台周辺にこんな多くの方が訪ねて来て下さるようになるとは信じがたい程です。中でも昨年12月、冬季間の景観づくり役に役立てようと町からの助成金も得て実行したイルミネーションは大変好評をいただき、町民の方々から励まし言葉をかけてくださるようになつたのは大変有難く励みとなりました。道東における見ごたえのある景観スポットの1つとして演出できたのではないかと自負しております。標津線は廃線して31年目を迎えますが、我々が「二一ーヨン」は標津町の皆様と共に再び進み始めました。イベントのない日にSLひろばで作業をしていると、今では国内外から旅人がぼつりぼつりと訪ねて来てくれるようになりました。SLに興味の無い方もある方も、ぜひ一度、役場裏側にお立ち寄り下さい。そこには私たち標津町の夢と観光拠点としての可能性が埋まっています。

編集室



この8年間、議会だよりの表紙は、「元氣な団体や行事」の紹介、最後のページは、町民からの「寄稿」と決めて発行してきました。写真の提供や取材に応じていただいた方々に感謝。又「寄稿」は今回で31人となりました。それぞれの立場からの提言や、筆者の「お人柄」を感じさせる文章など様々ですが、お多忙中にもかかわらず、寄稿して頂いた方々に心から感謝。「議会だより」は町民と議会を結ぶ大切なものと理解し、町民に読んでもらえるよう努力しつつも、力量不足が多々…。

(大垣 勇)